

上下水道事業の状況及び経営戦略について

令和6年9月19日

令和6年度 富士見町上下水道審議会資料

目次

- | | | |
|---|----------------------|-----|
| 1 | 富士見町上下水道事業の概要 | P 1 |
| 2 | 地方公営企業会計の原則 | P 2 |
| 3 | 富士見町上下水道事業の現状（計画と決算） | P 3 |
| 4 | 富士見町上下水道の経営戦略について | P14 |

1 富士見町上下水道事業の概要

富士見町水道事業は昭和37年、下水道事業は平成2年から事業を開始しました。平成15年に下水道事業の地方公営企業法の適用に合わせ、上下水道課として企業会計の経済性を発揮し両事業の運営を進めています。

水道事業の概要（令和5年度）

事業創設認可年月日	：	昭和37年12月27日
供用開始年月日	：	昭和40年1月1日
行政区域内人口	：	14,149人
現在給水人口	：	13,902人（普及率 98.3%）

- ・富士見町の水道事業は、昭和40年の供用開始から59年が経過しています。
- ・16カ所の水源、4カ所の浄水施設、43カ所の配水池を保有し利用者へ配水を行っています。

下水道事業の概要（令和5年度）

建設事業開始年月日	：	平成2年6月15日（農排）平成2年12月10日（公共）
供用開始年月日	：	平成6年4月1日（農排）平成5年9月1日（公共）
処理区域内人口	：	1,588人 + 11,174人 = 12,762人（普及率 90.2%）
水洗便所設置済人口	：	1,435人 + 10,419人 = 11,854人（水洗化率 86.1%）

- ・富士見町の下水道事業は、分流式の排除方式を採用し、平成2年から建設が開始され供用開始から30年が経過しています。
- ・諏訪湖流域下水道豊田終末処理場と、町内4つの処理場（富士見・境・立沢・西久保）で汚水処理を行っています。

2 地方企業会計の基本原則

○経営の基本原則（地方公営企業法第3条）

→企業の経済性を発揮するとともに公共の福祉を増進するよう運営をする。

○独立採算の原則（地方公営企業法第17条の2第2項）

→必要な経費は経営に伴う収入（水道料金・下水道使用料）をもって充てる。

○公正妥当な料金（地方公営企業法第21条第2項）

→適正な原価を元に健全な運営を確保する。

特定の者に対し不当な差別的な扱いをしない。

3 富士見町上下水道の現状（計画と決算）

○富士見上下水道事業 経営戦略

将来にわたって安定的に事業を継続していくための、中長期的（令和2～11年度の10年間）な基本計画

水道事業

経営戦略

基本方針

- 安心安全な給水の確保（水源の保全と水質管理）
- 災害に強い水道の確立（施設の耐震化と老朽施設の更新）
- 水道運営基盤の強化（経営改善、財政計画、維持管理の向上）
- 水道サービスの充実と環境・エネルギー対策の推進（情報提供・有収率・省エネ）

下水道事業

経営戦略

基本方針

- 利便性や快適性を維持していくために維持管理費の削減
- 管路・施設の修繕更新計画の策定
- 処理施設の統廃合やマンホールポンプ場の廃止による維持管理費の削減
- 水洗化率の向上、使用料収入の確保

○富士見町上下水道事業 経営戦略における投資計画

基本方針に基づく富士見町の投資への具体的な取り組み

水道事業 投資計画

令和2～11年度の取り組み

- 第6水源膜ろ過整備事業
- 耐震管路整備事業
- 施設更新事業
- 新水源開発事業

総額56億円
以上の投資

下水道事業 投資計画

令和2～11年度の取り組み

- 接続幹線整備事業
- 改築更新事業
- マンホールポンプ廃止事業

総額10億円
以上の投資

○富士見町上下水道事業の経営戦略における財政計画

基本方針に基づく富士見町の収入への具体的な取り組み

水道事業 財政計画

給水人口の減少や水需要に注視し持続可能な料金収入を確保

- 料金収入…料金収入が減少する中、今後の新規整備・更新事業を進めるためには
- 令和7年度以降、現状の料金体制での経営は難しい状況 → 令和7年から料金改定
- 企業債…新規事業（第6水源膜ろ過整備事業等）には企業債の発行を予定
- 他会計貸付金償還金…令和6年度以降下水道事業から10億円（年間1億円）の償還
- 国庫補助金…第6水源膜ろ過整備事業には、事業費の1/4の補助金を予定

下水道事業 財政計画

健全な経営を維持していけるよう適切な収入の確保

- 使用料収入…使用料収入が減少するものの、安定した経営ができるものと想定される。
- 他会計補助金…一般会計からの繰入金については令和7年度以降、徐々に減額できる見込み
- → ストックマネジメント計画を策定した上で令和7年度に使用料の改定や他会計補助金の見直しの検討をする。
- 企業債…自然流下方式及び接続幹線整備事業には企業債の発行を予定
- 国庫補助金…幹線整備事業には、事業費の1/2の補助金を予定
- 他会計借入金…令和5年度まで総額10億円の借入を予定

○令和5年度富士見町上下水道決算概要

全体として、上下水道事業の主要収益である給水収益は微減、下水道使用料は微増となりました。水道事業は減収増益、下水道事業は増収増益となっています。今後、水道事業は令和7年から料金改定を控えているため増収が見込まれますが、両事業とも、長期的には収益の減少傾向が続くと予想されるため、経営戦略の進捗状況を注視しながら事業を進めてまいります。

水道事業会計

給水収益	：	448,354千円	（前年比 Δ 0.9%）
純利益	：	104,043千円	（前年比 20.5%）

- ・一般利用者の水道料金はほぼ横ばい、事業者の水道料金は微減
- ・一時的（廃棄物処分）な委託料や電気料（政府支援）の減少

下水道事業会計

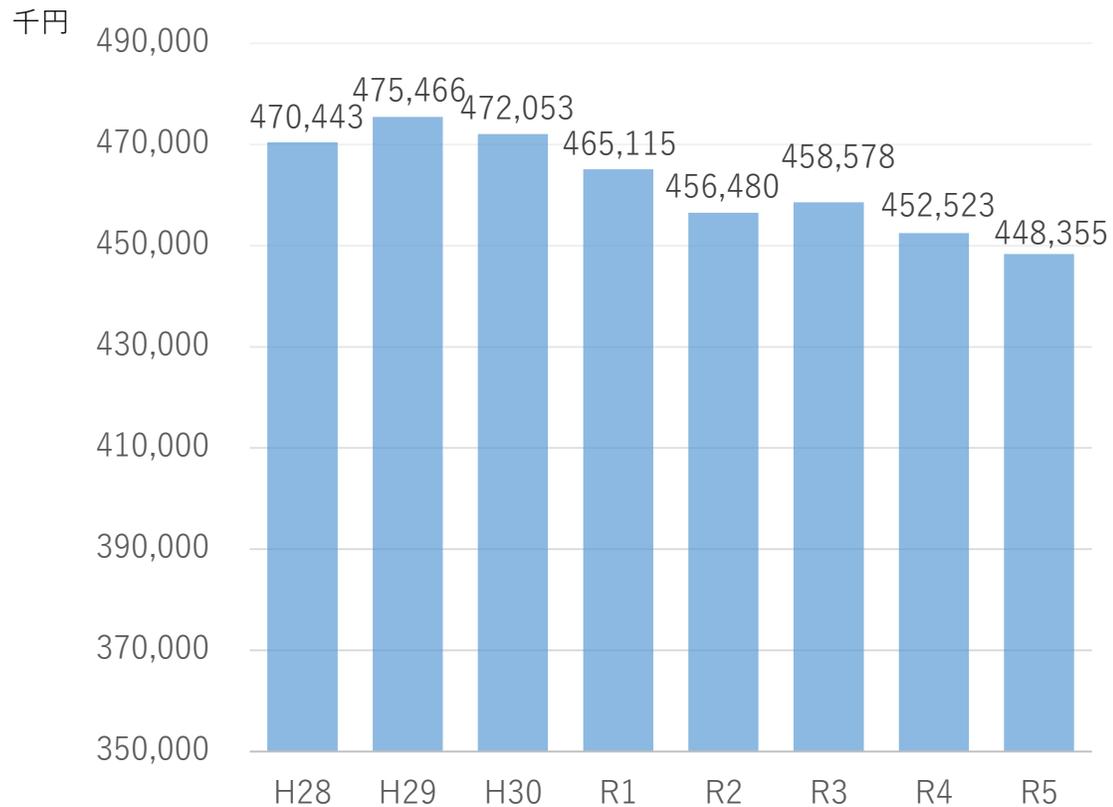
下水道使用料	：	529,521千円	（前年比 0.3%）
純利益	：	393,556千円	（前年比 4.7%）

- ・一般利用者の下水道使用料はほぼ横ばい、事業者の下水道使用料は微増
- ・企業債の償還にともなう支払利息の大幅な減少

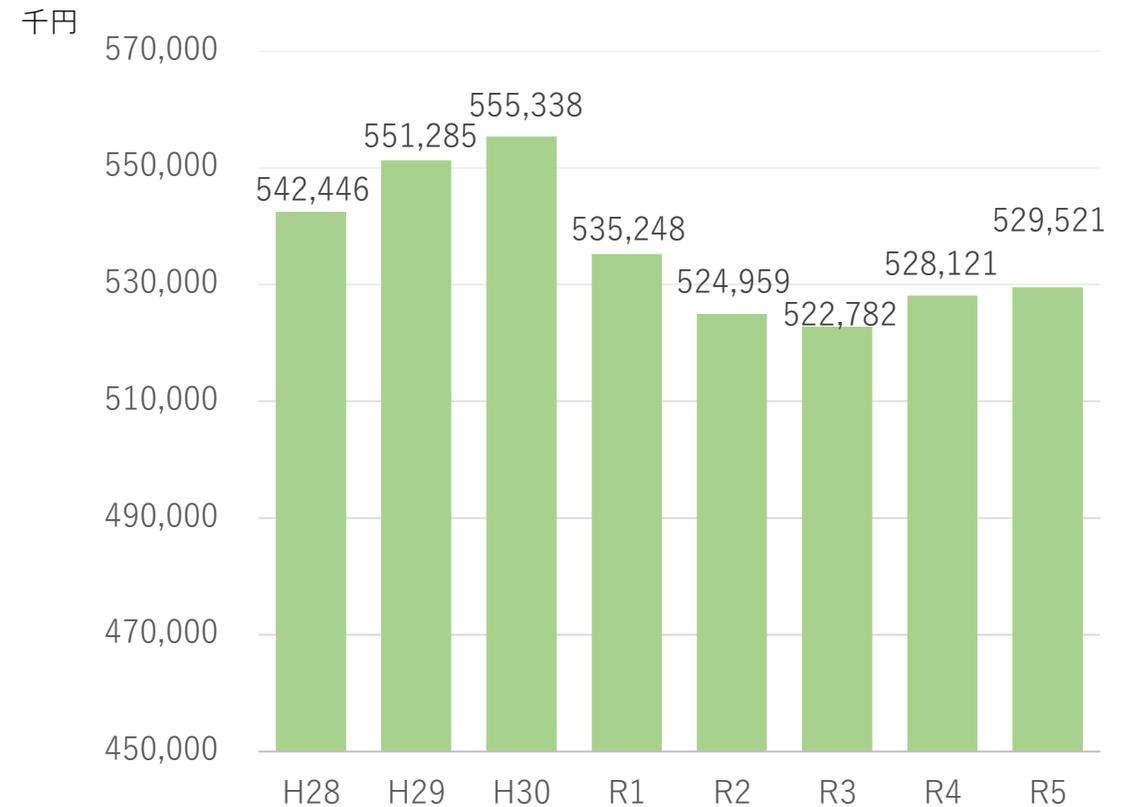
水道料金と下水道使用料推移

平成30年度以降、上下水道ともに新型コロナウイルスの影響により減少傾向となっています。令和4年度は、令和2年度と同等の料金収入を見込んでいます。

水道料金推移



下水道使用料推移



水道事業損益計算書・貸借対照表

料金収入は減少したものの、委託料、電気料や修繕費の減少により、営業利益は前年度比7.2%増加となりました。

(単位：千円)	R5	R4	前年比
営業収益	451,388	456,060	△1.0%
営業費用	481,054	504,433	△4.6%
営業利益	△29,666	△48,373	7.2%
営業外収益	139,978	142,971	△2.0%
営業外費用	6,269	8,220	△23.7%
経常利益	116,581	86,378	20.5%
特別利益	0	0	
特別損失	0	0	
当期純利益	104,043	86,378	20.5%

(単位：千円)	R5	R4	増減
固定資産	7,874,198	7,756,824	117,374
流動資産	1,533,116	1,596,909	△63,793
現金預金	1,405,328	1,485,843	△80,515
資産合計	9,407,314	9,353,733	△53,581
固定負債	1,010,813	1,060,225	△49,412
企業債	287,611	337,023	△49,412
流動負債	102,315	83,726	18,589
繰延収益	2,038,415	2,150,255	△111,840
負債合計	3,151,543	3,294,206	△142,663
資本合計	6,255,770	6,059,527	196,243

水道事業の投資概要（第5次総合計画 実施計画）

事業	事業内容（R5）	R3決算額	R4決算額	R5決算額
水源対策浄水方法変更	第6水源膜ろ過方式浄水場整備	123,783千円	111,749千円	繰越
耐震管整備	富士見峠第2本管、富里南原山線布設替、テクノ街道新設	94,369千円	124,960千円	133,265千円
老朽施設整備	高森橋添架水道管、乙事干草橋撤去復旧	43,384千円	20,896千円	47,145千円
その他整備	消火栓、井戸ポンプ、送水ポンプ、減圧弁、流量計等更新	43,626千円	36,245千円	28,214千円
営業設備	量水器取替	40,523千円	42,034千円	24,644千円

下水道事業損益計算書・貸借対照表

下水道使用料はわずかに増加したものの、人件費や委託料の増加により、今年度の営業利益は前年度比3.9%減となりました。借入金の返済が一段落したことを受け、下水道施設の効率化及び既存施設の更新を進めてまいります。

(単位：千円)	R5	R4	前年比
営業収益	530,690	528,468	0.4%
営業費用	782,591	770,947	+1.5%
営業利益	△251,901	△242,479	△3.9%
営業外収益	701,108	690,177	1.6%
営業外費用	55,651	73,320	△24.1%
経常利益	393,556	374,378	5.1%
特別利益	0	1,474	皆減
特別損失	0	0	
当期純利益	393,556	375,852	4.7%

(単位：千円)	R5	R4	増減
固定資産	12,838,276	13,277,924	△439,648
流動資産	1,044,778	954,847	89,931
現金預金	923,276	857,497	65,779
資産合計	13,883,054	14,232,771	△349,717
固定負債	2,787,613	3,394,385	△606,772
企業債	1,906,426	2,413,198	△506,772
流動負債	679,813	672,759	7,054
繰延収益	4,839,214	4,982,769	△143,555
負債合計	8,306,640	9,049,913	△743,273
資本合計	5,576,414	5,182,858	+393,556

下水道事業の投資概要（第5次総合計画 実施計画）

事業	事業内容	R3決算額	R4決算額	R5決算額
自然流下方式整備	テクノ街道新設整備	149,127千円	19,613千円	繰越
MP通報装置更新	マンホールポンプ通報装置更新	12,430千円	0千円	0千円
設備機器類等更新	処理場汚泥引抜ポンプ、流量調整ポンプ、流入水量計更新	1,540千円	638千円	2,687千円
諏訪湖流域建設負担金	富士見町関連工事負担金	16,443千円	12,780千円	11,531千円
その他整備	舗装復旧	15,345千円	48,917千円	6,963千円

4 富士見町上下水道事業の経営戦略について

富士見町上下水道事業の経営戦略は、令和2年3月に策定され、10年間という中長期的な経営計画（計画期間：令和2年度～令和11年度）を明らかにするものです。

一方で、この間にエネルギー価格の高騰や物価の高騰等、動力費や資材費・労務費の増加など両事業の経営に大きな影響を与えています。

このため、こうした経営環境の急激な変化を踏まえ、このたび、経営戦略の一部を見直すとしたものです。

なお、この見直しは、現時点で入手可能な情報に基づき一定の前提条件のもとで試算したものであり、今後の社会情勢の変化や、経営戦略の取組の進捗等による影響により、異なる結果となる可能性もあります。

また、今回の見直しは、収支見通しの見直しを行うもので、取組事業の見直しを行うものではありません。次年度以降、「水道料金の改定」や「ストックマネジメント計画の策定」を踏まえ経営戦略の計画期間や取組事業を含めた更新を行う予定です。

この収支見通しは、社会情勢の変化に応じて、適宜見直しを行うこととしています。

経営戦略見直しの主な内容

上下水道事業を取り巻く環境の変化

- ・ エネルギー価格の高騰による動力費の見直し
- ・ 物価高騰に伴う資材費や労務費の見直し
- ・ 水道料金の改定（令和7年から）

その他現時点における最新の情報を加味

- ・ 現時点での最新の事業概要を反映（人口に関すること、施設の状況）
- ・ 現時点で変更が決まっている事業計画の内容を反映
- ・ 令和5年度までの計画額を決算額に置き換え
- ・ 令和6年度の計画額を予算額に置き換え

(1)事業概要

①事業の現行

- ・数値を令和元年度のデータから最新のデータに置き換えました

水道事業

- ・ 現在給水人口 : 14,244人 → 13,902人
- ・ 有収水量密度 : 0.53千m³/ha → 0.50千m³/ha
- ・ 管路延長 : 321.11千m → 322.70千m
- ・ 施設利用率 : 69.75% → 71.58%

下水道事業

- ・ 処理区域内人口密度 : 17.1人/ha → 16.4人/ha
- ・ 実施状況（統合年度） : 令和6年度 → 令和7年度

行政区域内人口の減少により、各数値が減少傾向にあり、経営環境は厳しさが増していくことが予想される。

(2)将来の事業環境

○給水人口及び水需要の予測、料金収入の見通し

- ・ 行政区域内人口は令和元年度推計値を上回っているが、緩やかに減少
- ・ 料金収入はコロナの影響もあり推計値を下回り、緩やかに減少

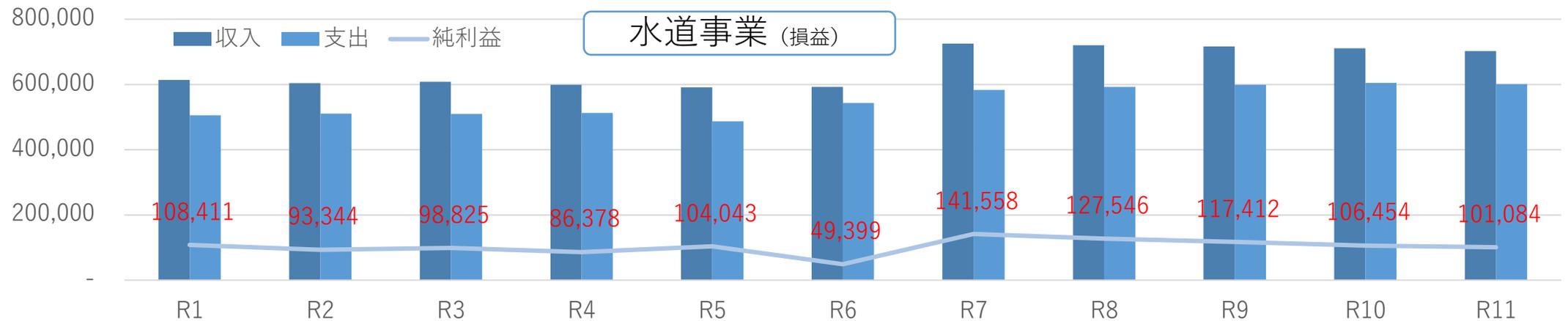
	~令和5年度 【実績値】	令和6年度 【料金改定】	令和11年 【計画最終年度】
行政区域内人口	14,149人	13,580人	12,978人
有収水量（水道）	2,838,816m ³	2,858,000m ³ (R5から約1%増加)	2,726,550m ³ (R5から約4%減少)
水道料金収入	448,355千円	464,009千円 (R5から約4%増加)	557,032千円 (R5から約24%増加)
有収水量(下水道)	2,436,376m ³	2,410,000m ³ (R5から約1%減少)	2,402,800m ³ (R5から約2%減少)
下水道料金収入	529,521千円	525,729千円 (R5から約1%減少)	525,567千円 (R5から約2%減少)

水道事業の有収水量と料金収入は、短期的な上昇は見込むものの、緩やかに減少
下水道事業の有収水量と料金収入は、緩やかに減少

(3)投資・財政計画

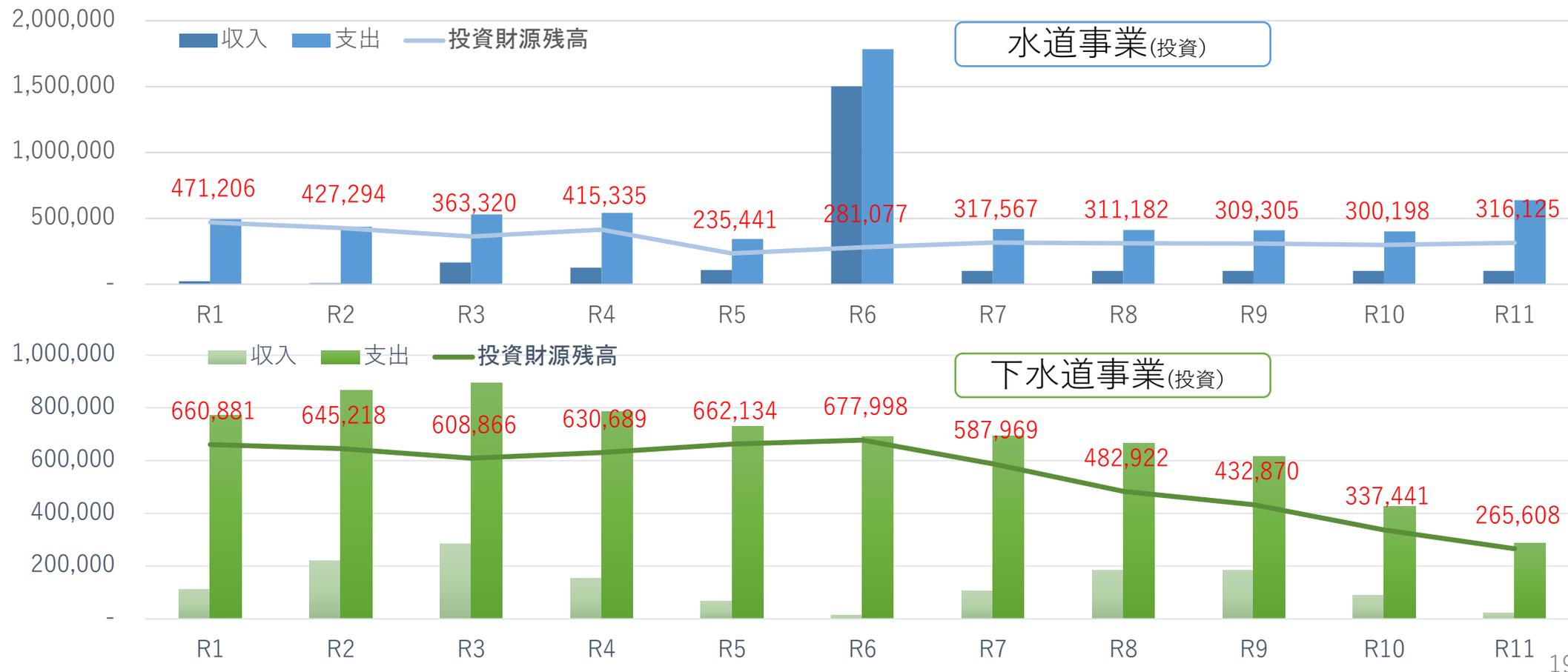
①投資・財政計画

- ・ 数値を令和元年度のデータから最新のデータに置き換えました
- ・ 電気料、人件費、資材費等について、物価上昇率を考慮し見直しを行いました。
- ・ 現時点で変更が決まっている事業計画の内容を反映（新水源の開発の中止、料金改定）



(3)投資・財政計画

①投資・財政計画



水道事業は料金改定により、計画による投資財源を確保できる見込み

下水道事業は令和8年度以降、一般会計からの補助金の減少に合わせ投資財源が減少

4.事後検証、更新に関すること

- 目標に対する進捗状況を管理
- 定期的（5年程度ごと）に見直しを行う。
- 料金改定等重要な決定が行われた場合は、随時見直す。

【水道事業】

- 令和7年1月 水道料金の改定
- 令和7年3月 第6水源膜ろ過浄水場整備のしゅん工

【下水道事業】

- 令和7年3月 スtockマネジメント計画の策定
- 令和8年度 一般会計補助金の見直し

→ 令和7年度に「経営戦略」の改定を検討

お問い合わせ

本審議会資料に関する、ご意見・ご質問は下記へお問い合わせください。

富士見町上下水道課庶務経理係
電話：0266-62-9352
FAX：0266-62-7509
Mail：jyougesui@town.fujimi.lg.jp